



子育ては ゴリラの森で

OKAYASU Naobi
岡安直比

娘と一緒
に夢追
いかけて、
やつて
きました
野生の
大地



小学館

定価1,575円 本林1,500円

我が子は
紙おむつの
赤ちゃん
ゴリラ

ママさんサル学者、

涙と笑いの奮戦記

1999年4月20日 初版第1刷発行

子
コ

[著作者] 岡安直比 おかやす なおひ

[発行者] 田部井満男

[発行所] 株式会社 小学館

〒101-8001

東京都千代田区一ツ橋 2-3-1

電話(編集) 03-3230-5442

(制作) 03-3230-5333

(販売) 03-3230-5739

振替 00180-1-200

[印刷所] 藤原印刷株式会社

© Naobi Okayasu, 1999

Printed in Japan

ISBN 4-09-387268-6

NDC916 280p 195mm×135mm

製本には十分注意をしておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら、小社制作部宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。

本書の一部または全部を無断で複写(コピー)することは、著作権上の例外を除き、禁じられています。予め小社まで許諾をお求めください。



ボタンを外そうとしているマクワ（4歳）。ゴリラは珍しいものを見つけると、すぐいたずらする。Tシャツの中に頭を突っ込んできて、おっぱいを探すことも。



93年4月、親子でンドキの森を訪れる途中のボマサの村で。早菜はまだ7歳だった。



ほ乳瓶の中身は水で溶いた人間用の粉ミルク。ゴリラのあかんぼうの大好物だ。
(撮影/宇津広美)

ブリジットは、わが家に通っていた頼りになる家政婦さん。彼女もあかんぼうゴリラの面倒をみてくれた。



下痢がひどいあかんぼうゴリラには紙おむつをあてる。ディモニカはこの時生後6か月。

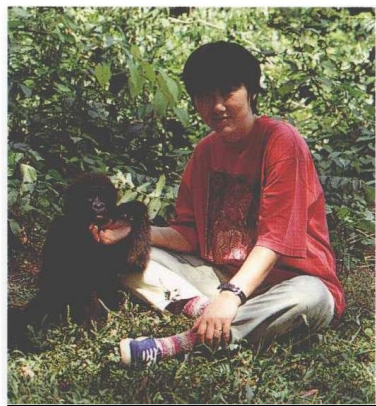
かごに入れられて孤児院に運ばれてきたマバフィ（生後3か月）。ぐっすり眠っていた。

アルベルティンはゴリラ孤児院のベテランスタッフ。下痢で脱水がひどい子にスポーツドリンクを飲ませる。

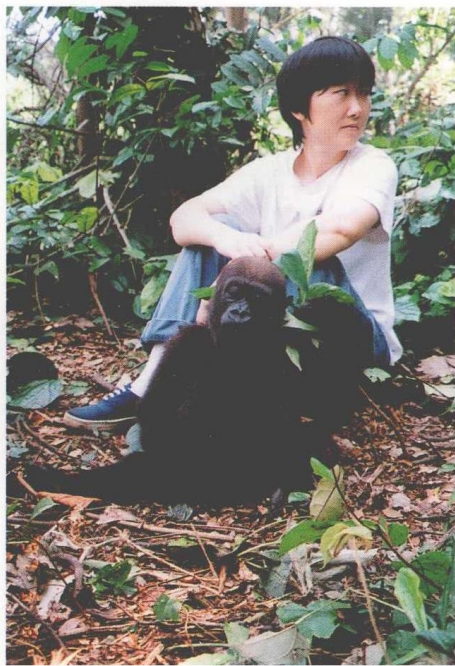




コンゴ滞在の途中から、
わが家の同居人になった
フランス人パイロットの
リオネル。カメラが趣味。



アゴの下をくすぐられ
て舌を出すコト。この
1か月後に内戦が勃発。
一緒に脱出した。



木の芽を食べてお腹いっぱい
のジェケ（2歳）。
やんちゃでコンゴ脱出時も
手を焼いた。

早菜(9歳)に脇の下をくすぐられて
喜ぶレンギ(3歳)。ゴリラはくすぐ
り遊びが大好き。



孤児院で育ったゴリラは、広大なレフィニの
森に放される。コーラ(8歳)も野生に復帰した。



「レスリング遊びしようよ」
と仲間のゴリラに向かって
ドラミングするチチ(4歳)。

スタッフのエディット
とピグミーチンパンジー。
森への行き帰りは、
いつも連なって歩く。



レフィニの森に移送する前に、
ハウレットの獣医に身体検査
を受けるカボ(6歳半・右)と
バンガ(5歳)。



96年5月にレフィニの森に野生復帰したチチ
(7歳)。胸板が厚く、ドラミングがうまい。



96年11月に、レフィニの森
に移住したカボ(6歳半)。
短足で胴長。顔はウマ面だ。

蔓にぶらさがってブランコ遊びをするンゴコ（3歳半）を
押す早菜（9歳）。ゴリラは彼
女の友達だった。



ロケット弾で破壊され
たブラザビル市内の省
庁ビルと商店街。
(97年11月、撮影/デスピーナ)



ロケット弾で大きな穴が開い
たホテル・ソフィテルの外壁。
(97年11月、撮影/デスピーナ)



コンゴ北部の都市、ウエッソのマルシェ（市場）。
生鮮食品から日用雑貨、衣料品まで何でも揃う。



早菜（9歳・写真右）を連れて森へ。ゴリラのこどもは甘えん坊。ケージに帰る雰囲気を感じて一度に5頭がしがみついてきた。総重量100kg。このあと前に踏み出した途端、重くて倒れた。

子育ては
ゴリラの森で



岡安直比 小学館

フロロク 決死の脱出

14

子賣ては
ゴリラの森で



第二章*

憧れの地、アフリカへ

18

はるばる来ました、マヤマヤ空港 18 子連れ「サル屋」誕生 26
アフリカ中毒 32 恐怖のマリア 38 バアバの留守番の記 47

第三章*

かあちゃん、ゴリラ?、これ、本モン?

56

ああ、日が暮れてしまふ 56 ゴリラ孤児院とギャンブラー 62
早業、あかんぼうゴリラと対面 70 早業、毛づくろいしてもらう 75
ゴリラの前でおしっこ 85 早業、ゴリラの洗礼を受ける 91

第三章*

四畳半二間から八〇坪の邸宅へ

98

えっ、アフリカで家賃一〇万円? 98 オクラだ、煮干しだ、マーケット 106
ゴリラ保育園からアメリカンスクールへ 114 夜警のジャックちゃん 118
家政婦さんは語学の達人 126 ゴリラ母さん、アルベルティン 132 大秘境、ンドキの森へ 140

第四章*

肉体派から知性派まで、ゴリラもいる

148

ゴリラ孤児院に就職 148 不眠不休のマネージャー業 154 悲運のヤンボ 158

ハンサムボーイ、ゴリラ 160 お絵かきゴリラ、カボ 165

気配りのオス、マクワ 169 ベビーラッシュ 172

第五章*

パツク

180

孤児院に缶詰 180 早業、即席防空壕に隠れる 188 救援物資にふりかけが…… 192

つかの間の休息 197 早業の旅支度 203 日本人御一行様、消息不明? 208

リオネル、金をばらまいて逃げる 212 セジヨン將軍参上 215 もう限界だ…… 221

第六章*

そして、難民生活

228

さようなら、ゴリラ孤児院 228 ゴーストタウンにまっ青 236 戦火の中で出産 240

誰か助けて! 243 ジェケ、將軍と遊ぶ 248 フランス軍の野営食に舌つづみ 251

ベンツの中で熟睡 255 紙おむつのゴリラと軍用機に 260 ブラザビル脱出! 264

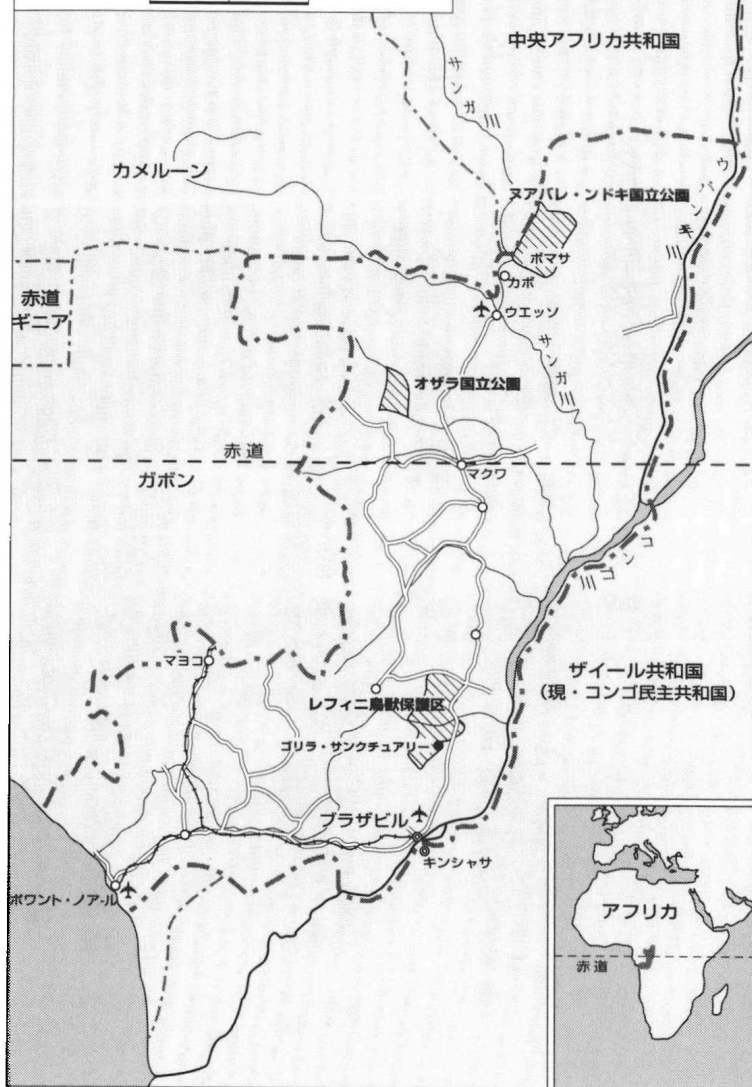
エピソード 早業に会いたい!

268

あとがき 273

コンゴ共和国

0 100 200Km



ブラザビル市街

0 1 2Km

マヤマヤ国際空港



- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ① 空港事務所 | ⑪ フランス文化センター |
| ② アエロ・クラブ (飛行機愛好会) | ⑫ マルシェ・トータル (市場) |
| ③ 国会議事堂 | ⑬ 最初の我が家 |
| ④ 内戦勃発時の我が家 | ⑭ WCS (野生動物保護協会) |
| ⑤ 国立中央病院 | ⑮ 郵便局 |
| ⑥ 消防署 | ⑯ 市役所 |
| ⑦ メレディアン・ホテル | ⑰ アメリカ大使館 |
| ⑧ ブラザビル動物園 (ゴリラ孤児院) | ⑱ スコール (高級スーパーマーケット) |
| ⑨ 政府軍キャンプ (ロケット弾発射基地) | ⑲ ホテル・ソフィテル |
| ⑩ インターナショナル・スクール | ⑳ ラ・ツール・ベンバ (省庁ビル) |
| | ㉑ フランス大使館 |

★フロローク
決死の脱出

突然、ダダダというマシンガンの音が目の前であがった。

身構えるより先に、反射的に銃声の方向に目がいった。

三〇メートル先の倉庫の屋根を越えて、数発の銃弾がこちらへめがけて飛んでくる。

五、六発まとまった弾丸が、放物線を描いて近づいてくる様子は、まるでスローモーションの映像を見ているようだった。

一瞬思考が止まった。

ついさっきまで私は、ちびゴリラたちに昼食の果物を食べさせようとしていた。やんちゃ坊主のジエケが、あまりに騒々しいので叱りかけたとき、銃声が轟いた——このままでは、ゴリラも

私も殺^やられてしまう！

あわててそばにいたゴリラたちを掻^かき抱^{いだ}く。足がふるえて一步も動けず、そのまま地面に伏せて、意味もなく頭を手でかばった。

怖くて、弾の行方を見定める勇氣などない。

どうか当たりませんように！

私には、祈るだけで精いっぱいだった。

最初の銃声からどれぐらいたつただろう。亀のように首だけもたげて、おそろおそろ周囲を見回してみると、数メートル先で昼食をとっていたフランス兵たちの手前の砂地に、数発の弾丸がめり込んでいるのが見えた。怪^け我^が人^{にん}はいないようだったが、みんな伏せたまま、凍りついたように身じろぎひとつしない。

一九九七年六月五日にアフリカのコンゴ共和国の首都ブラザビルで市街戦が勃発した。そして今日、一〇日になってフランス軍の救援隊に助け出され、やっとの思いでブラザビル動物園を脱出できた。

それから二時間、空港までたどりついて久々に解放感を味わったのもつかの間、今、私たちは再び恐怖の真^まっ只^{ただ}中^{なか}にいる。

さつきまで、銃をかついだ兵士にまわりついてはしゃいでいたジェケも、今は私の体の下で